

【組織の使命】

競輪事業部は、当市の財政に貢献することをめざし、函館競輪の開催および他場開催競輪の車券発売を行っています。

競輪事業部のミッション（使命）は、

競輪事業の実施により財政への貢献をめざすとともに、北海道で唯一の競輪場として、自転車競走の振興と発展、さらには産業振興とスポーツ振興に寄与することを目標に、将来にわたって競輪文化の明かりを絶やすことなく灯し続けることです。

全国的な人口減少や高齢化の進展、価値観の多様化など様々な要因によって競輪界を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、また、かつては地域性の強いレジャーとしての位置づけであった競輪事業も、交通体系の発達やIT技術の進展とともに全国規模の車券発売が可能となり、他の競輪場との競争は激しさを増しております。

このような環境の中で、現在の競輪ファンの維持に加え、新たなファン層の開拓や、経費節減による収益確保が今まで以上に強く求められていることから、環境の変化に柔軟に対応し、その使命の達成に向け組織が一体となって取り組みます。

【組織の基本方針】

- 競輪事業は大きな変革期にありますが、競輪事業が果たしてきた歴史的な意義を忘れることなく、常に「反省」と「改革」、「挑戦（チャレンジ）」の心を持ち続け、安定した経営基盤の確立に全力で取り組みます。
- 競輪事業を将来にわたって引き継いでいくためには、競輪ファンばかりではなく、多くの市民の理解を得ることが不可欠であり、競輪が果たしてきた役割や現状などを知っていただけるよう、これまで以上に広報活動を行うとともに、オリンピック競技にもなっている自転車競技の魅力を伝える努力を続けます。
- 組織内の情報を共有化し、自由闊達な雰囲気の中で、時代の変化をつかみとるアンテナをめぐらせ、失敗を恐れずに収益の拡大に向け、民間のノウハウを積極的に活用するなど、新たな取り組みに挑戦し、安定した経営基盤の確立に全力で取り組みます。

【年度評価 総評】

競輪事業は、機械工業の振興をはじめ、体育事業など公益の増進とともに、地方財政の健全化を目的に行っていますが全国的に売上が減少するなかで、当市においては開催に係る収支は黒字基調で推移しており、平成29年度で累積赤字を解消することができたほか、平成14年度に完成した競輪場改築時の市債償還についても、令和元年度（2019年度）をもって返済できる見込みとなっております。

このような状況の中、競輪事業部では、売上増を目指し、新たなファン獲得やファンニーズに対応した、質の高いサービスの提供に積極的に取り組み、平成30年度においては、GⅢレース「函館競輪開設68周年記念競輪」をナイターで開催したほか、函館競輪場から発祥したナイター競輪が20周年の節目の年にあたることから「函館ナイター競輪20周年記念」と称してGⅢグレードのナイターをもう1本開催するなど、様々な形で集客の増加を図ってまいりました。

平成30年度の売上については、北海道胆振東部地震に伴う大規模停電と、その後の電力不足による節電のため、2開催を中止した影響により、結果的に目標額にとどかなかったものの、開催経費の縮減を図ったことなどにより、単年度収支で黒字を計上でき、平成11年度以来となる、一般会計への繰り出しも行ったところであります。

今後とも、引き続き、収益性を高める効果的・効率的な業務体制を確立し、競輪事業を地域の財産の一つとして、将来にわたって継続することができるよう努力してまいります。

競輪事業部長 伊与部 隆

| 区 分 | 担当課 | 評価 | 評価の説明 |
|---|-----|----|---|
| 1 函館競輪の魅力向上 | | | |
| ① 競輪事業および自転車競技への理解の促進 | | | |
| 競輪事業について市民の理解を促進するため、広報活動を充実するとともに、関係団体が主催する競技大会やサイクリング大会への支援などにより自転車の魅力を市民に伝えます。 | 事業課 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・競輪場の施設見学や競輪に関する出前講座などの実施により、競輪の魅力、競輪事業がこれまで果たしてきた市財政への貢献等について市民に積極的にPRすることができた。 ・北海道自転車競技会選手権大会や国体自転車競技北海道ブロック予選会などの開催を通じて、地域における自転車競技の普及・振興に努めた。 ・テレシアターの一般開放を一層促進し、多くの方に多目的施設として競輪場を利用していただける体制の整備を図った。 |
| ② ファンサービスの充実と新たなファンの開拓 | | | |
| 売上増を図るため、ファンのニーズに対応した施策を展開するとともに、地元選手会や選手会OB会と協働し、競輪事業の活性化を図ります。 | 事業課 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・市営函館競輪や臨時場外開催時の来場者やスターライト読者、サテライト来場者などにアンケート調査を実施し、意見・要望等に対応したファンサービスの提供ができた。 ・インターネット上でレース実況の配信をしたほか、市営函館開催のレース展開予想など、ファンニーズに対応した情報提供を実施した。 ・選手会OB会や実況アナウンサーによるレース展望の開催によりファンとの一体感を高めることができた。 ・包括受託者と協力し、車券の購入や競輪場内での利用券に交換できるポイントサービスなどのファンサービスを実施した。 ・eスマート倶楽部の拡大が図られた。 |
| 若年者や初心者のための講座開設などにより、新たなファンの開拓に努めます。 | 事業課 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・競輪場内を活用し、初心者教室の開催やナイター観戦イベント開催時に地元OB選手によるレース展望会を実施し、新たなファンの開拓に努めた。 ・りんりんのSNSページにおいて競輪場内で開催されるイベント告知を行い、イベントを契機として来場されるお客様へのPRを行った。 ・包括受託事業者が旅行会社と提携し、競輪観戦ツアーを行った。 |

・主要施策, 事務事業

平成30年度競輪事業部運営方針(年度評価)

| 区 分 | 担当課 | 評価 | 評価の説明 |
|--|-----|----|--|
| <p>近年、既存のファン層だけでなく、若年者や女性を中心とした新たな層からも注目されている「ガールズケイリン」の開催数を今後も確保できるよう関係機関に働きかけるとともに、未来のガールズケイリン選手の発掘、育成サポートを行う「ホワイトガールズケイリン育成プロジェクト」を実施し、自転車競技の普及・発展を目指します。</p> <p>函館競輪場やそで行われるイベント等を知っていただくためのツールとしてWebやSNS媒体をこれまで以上に活用し、多くのお客様に函館競輪場の魅力を伝えることで来場者の増加や新規ファンの確保に努めます。</p> | 事業課 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ガールズケイリン開催数の確保に向け関係機関に働きかけ、今まで競輪場に足を運ばなかった層がガールズケイリンの観戦を契機として来場する機会を捉え、競輪の魅力を実感的にPRし、集客増加に貢献した。 ・未来のガールズケイリン選手の発掘、育成サポートを行う「ホワイトガールズケイリン育成プロジェクト（WGP）」を実施し、状況等をリアルタイムで広く情報発信していくことで地域に対して自転車競技の魅力を伝え、ガールズケイリンや男性も含めた地元選手への興味・関心を醸成した。 ・ガールズケイリン選手の発掘・育成等を目的とした「ホワイトガールズケイリン育成プロジェクト」を実施、平成30年度は第1期生2名がプロデビューし、選手層の底上げに貢献した。 |
| <p>③ 自場発売の拡大や集客性のある特別競輪の開催</p> | | | |
| <p>ファンサービスの拡大や新たなファンの開拓などにより自場発売の拡大に努めるとともに、集客性の高い特別競輪を開催するなど、競輪の魅力向上を図ります。</p> | 事業課 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、GⅢレース「函館競輪開設68周年記念競輪」をナイターで開催したほか、函館競輪場から発祥したナイター競輪が、20周年の節目の年にあたることから「函館ナイター競輪20周年記念」と称してGⅢグレードのナイターをもう1本開催したほか、函館競輪では5年目となる「ガールズケイリン」を開催するなど、集客の増加に努めた。 ・協賛企業との連携により充実したファンサービスの提供や包括受託者が実施するeスマートカードでの車券購入へのポイントサービスなどにより、ファンサービスの拡充が図られた。 ・特別競輪の開催実現へ向け、関係機関に対して積極的に誘致活動を展開した。結果としては、残念ながら令和2年度誘致には至らなかったが、令和元年度では一層積極的な誘致活動を展開し、令和3年度開催実現に向け、努力していく。 |
| <p>④ 他の競輪場等との連携促進</p> | | | |
| <p>電話投票会員や臨時場外向けのファンサービスの拡大を図るとともに、全国のサテライトへ発売の協力を依頼し、場外車券売場の拡大を図ります。</p> | 事業課 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・FⅠ・FⅡ売上の多くを占める電話投票売上の一層の拡大を図るため、函館けいりん専門情報誌「スターライト」の誌面の充実に努めた。 ・サテライト場への発売協力の依頼を強化してきたが、北海道胆振東部地震に伴う大規模停電と、その後の電力不足による節電のため2開催を中止した影響等により、平成30年度の場外車券売場の開設日数は伸び悩んだが、その中においても出来る限りの場外車券売場の開設日数の確保に努めた。また、電投ファン向け視聴者感謝キャンペーン等を実施した。 |
| <p>函館競輪場では冬期間に競輪の開催ができないことから、冬期間等の他場借上開催の可能性について検討を進めます。</p> | 事業課 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間に他の競輪場を借上げて市営競輪を開催できるよう平成26年度に条例改正や規則改正等を行い、借上開催実施のための環境を整備した。今後、他場での借上開催の可能性について検討を進めていく。 |

| 区 分 | 担当課 | 評価 | 評価の説明 |
|--|-----|----|--|
| 2 競輪事業の経営改善 | | | |
| ① 関係機関との連携による各種制度の改善 | | | |
| <p>長年の要望活動などが実り、平成24年度から競輪制度自体を見直し、長期的に競輪事業を継続できるよう、JKA交付金の負担軽減など自転車競技法が改正されたほか、競輪選手数やレース数の削減などによる選手賞金の削減などの改革が進められてきましたが、これらの効果を検証しつつ、今後とも関係機関と連携し、各種制度の改善要望活動を実施します。</p> | 事業課 | B | <p>・JKA競技審判等委託料等の削減により、施行者の負担が軽減された。</p> |
| ② 競輪場施設の計画的・安定的な維持管理 | | | |
| <p>競輪場施設は、全面改修から既に14年以上が経過しており、今後の大規模改修等に要する財源確保が課題となっていることから、施設の計画的・安定的な維持管理を目的とした「競輪事業施設整備基金」への積み立てを行い、将来の大規模改修等に備えます。</p> | 事業課 | A | <p>・平成30年度は、北海道胆振東部地震に伴う大規模停電と、その後の電力不足による節電のため、2開催を中止した影響により、売上は目標額にとどかなかったものの、開催経費の縮減を図ったことなどにより、単年度収支で黒字を計上でき、当初予算額を上回る約76,894千円を基金に積み立てた。</p> |
| ③ 市財政への貢献 | | | |
| <p>今後の収支改善により見込まれる収益については、基金への積み立てのほか、「市財政への貢献」という競輪事業の使命の達成を目指し、一般会計への繰り出しを実施します。</p> | 事業課 | A | <p>・平成30年度は、北海道胆振東部地震に伴う大規模停電と、その後の電力不足による節電のため、2開催を中止した影響により、売上は目標額にとどかなかったものの、開催経費の縮減を図ったことなどにより、単年度収支で黒字を計上でき、当初予算額と同額の70,000千円を一般会計に繰り出した。</p> |